

1963年の創立以来、アクアライン海底トンネルや東京外環プロジェクトなど、シールド工事をはじめ多くのインフラ整備に携わってきた大綱建設。最近では人材育成に力を入れ、入社後に資格や免許取得のサポート体制を充実させることで、土木専攻者以外も活躍できる環境を整えている。

入社2年目の野村和孝さんも、法学部から建設業へ進んだ一人だ。野村さんに入社のきっかけや目標などを聞いた。



大綱建設（渋谷区）
工事部 入社2年目

のむら かず たか
野村 和孝 さん

いずれは自分で現場を回す立場に

「建設業に進んだ経緯を教えてください。」

「大学は法学部で公共政策学科を専攻し、国や地方公共団体のインフラ政策などを学ぶ中で、インフラ整備に関わる仕事に就きたいと思った。ものづくりが盛んな川崎市の臨海地域で生まれ育ったからか、大きな機械が稼働する様子を見ると

テンションが上がる。自分に向いていそうなインフラをつくる」建設業に進もうと決めた」

「大綱建設を選んだ決め手は。」

「大学のキャリアセンターで資料を見て、大きなインフラプロジェクトに関わっている他、資格・免許取得のサポート体

制、休日の多さなどに魅力を感じ、直接会社の採用窓口で電話した。最近では就活サイトを経由した応募者がほとんどのため、担当者は驚いていたが、熱意は伝わったと思う」

「入社後の仕事は。」

「静岡県の富士教育訓練センターでの約2カ月間の研修を経て、教習所に通いクレーン運

中で分からないことは聞いて覚えるように心掛け、少しでも現場に貢献するため自分にできることは何かを模索している」

「仕事でやりがいを感じる場面はあるか。」

「クレーン運転士の免許を持っていることで、『クレーンで移動してほしい』と声をかけてもらえること。まだ2年目でもできる仕事は限られている。それでも人から頼られるのはうれしい」

「今後の目標は。」

「2級土木施工管理技士の2次検定の受験資格を得るまでの間、1級の1次検定合格を目指して日々勉強していく。いずれは先輩たちのように作業指示書を作成するなど『自分で現場を回す』立場になりたい。その際、現場の安全を徹底させるために労働安全コンサルタントの資格も取得しておきたい」